

令和2年度より研究委員会「アーカイブ事業」として実施している実践事例論文公募に際し、会員各位の深甚なるご理解と積極的なご応募を賜り、研究委員会として厚く御礼申し上げます。

さて、この度公募いただいた実践事例論文を学会ホームページで公開するにあたり、研究委員会内にて「事例掲載検討についての内規」に則って採用の可否を検討させていただきました。応募実践事例論文は、2編（いずれも分類Ⅰ「道徳科授業の工夫」）でした。いずれの実践事例論文もレベルの高い内容でしたが掲載可否について慎重に検討致しました結果、下記の論文が採用されましたので、ここにご報告申し上げます。

《令和3年度 研究委員会「アーカイブ事業」実践事例採用論文》

分類Ⅰ：論文テーマ「一人一台端末を活用した道徳科授業に関する一考察～教材「手品師」における思考ツールとしての活用に着目して～」

執筆者 梅澤 正輝会員（所属／東京都新宿区立戸塚第一小学校）

なお、本事業では公募要項にもある通り、最終論文を1編のみに絞り込むといった発想はもっておりません。あくまでも「事例掲載検討についての内規」に則っての採用可否検討となります。また、採用に至らなかった論文については次年度再投稿に向けて研究委員の改善コメントを全員の方にお示しさせていただきました。積極的にご応募いただいた皆様に改めて御礼申し上げますとともに、次年度のさらなる挑戦をご期待申し上げます。

\*参考までに、実践事例論文執筆の際にご留意いただきたい事柄を以下に示させていただきます。

- ①その実践研究に取り組む際、執筆者が前提とした問題意識とは何ですか。そして、実践研究に取り組んでその成果（必ずしも所与の結果にこだわる必要はない）は明確になっていますか。
- ②その実践研究を進めるにあたり、他の先行研究等を確認しながら追試可能な客観性のある方法や手順を用いていますか。
- ③その実践研究で導き出した研究結果の公平性、妥当性等は担保できていますか。
- ④その実践研究を取りまとめて考察する際、理論的な飛躍や信憑性に疑念を抱かれるような取りまとめになってはいませんか。
- ⑤その実践研究論文は会員のどなたが一読しても、研究の全貌が容易に理解できる記述表現となっていますか。せっかく取り組まれる実践研究です。平易で読みやすく、その成果を自分も試してみようかと思えるような論文構成に是非とも心がけていただきたいと思います。

\*研究委員会では「オンライン論文執筆セミナー」を開催し、会員の皆様の論文作成支援を行いました。今後も引き続き、継続的に会員支援企画を検討して参りたいと思います。